

合では diagnostic reliability がみとめられた。

肝癌及びホヂキン氏病の場合に於ては肝蓄積率は大きくなり、RoI curve がプラトーになる時間が早くなる傾向にある。

肝の蓄積率は肝細胞の量と activity とによって左右される様である。

12. 当院における映像処理について

藤井 恭一
(九州厚生年金病院・放)

九州厚生年金病院放射線科に導入された核医学装置は、東芝製γカメラ201型に、Tosbac 40Cを中心とし、コアメモリー64KBiteで、MT 1台、Disk 1台、大型ディスプレイと、ハードコピー及びカラー表示を可能とする装置である。一般的に、データ処理装置は動態機能測定に意義を有していると考えられて来たが、私共の装置、特にハードコピー、カラー表示装置の活用により、静的な映像が、その質的な検討が可能となる事が分った。

又、動的な計測値の変化の解析だけでなく、その動的な映像の変化を、その相だけの映像としてとり出す事も可能となり、例えば、心臓の左右房室及び大動脈などを個々に描写する事が可能となり、又、各疾患病変部分を的確なカラー表示で、映像の質的な処理が可能である事を報告した。

13. 胆シンチによる先天性胆道閉鎖の検査

仲山 親 渡辺 克司 川平建次郎
鴨井 逸馬 中田 肇 松浦 啓一
(九大・放)
高島 幸男
(九大・小児)

新生児、乳幼児における黄疸の鑑別診断に¹³¹I-RB または¹³¹I-BSPを用いた。対象は先天性胆道閉鎖14例、肝炎13例、その他9例の36例で40回

の検査を行った、RI 静注後、経時的シンチグラフィにて、先天性胆道閉鎖の場合、14例15回の検査で、RI が全く腸管に排泄されなかったものは13回で、肝炎の場合は13例15回の検査で、排泄過延または正常に排泄されたものは14回であった。RI の尿中、便中排泄率を静注72時間にわたり計測したが、先天性胆道閉鎖の便中排泄は10%以下に多く、肝炎の場合は10%以上に多かったが明瞭には区別できなかった。

14. ¹³¹I-Adsterol と ¹³¹I-19-iodocholesterol による犬の副腎シンチグラフィの検討

鴨井 逸馬 渡辺 克司 川平建次郎
仲山 親 古賀 一誠 川波 喬
松浦 啓一

(九大・放)

副腎シンチグラフィ用放射性医薬品として、¹³¹I-Adsterol および¹³¹I-19-iodocholesterol の両者について、犬を用いて副腎シンチグラフィを行う事および、臓器分布を計測することにより、副腎集積能を検討する。

犬2頭を用い、¹³¹I-Adsterol および¹³¹I-iodocholesterol 100μCi/kg を静脈内投与し、投与8日目に副腎シンチグラフィを行い、得られたシンチグラムについて副腎集積能を検討した。さらにシンチグラフィ終了後、直ちに屠殺し、副腎および主要臓器の一部を採取し、重量を計測した後、各臓器片の放射能をウエル型シンチレーションカウンターにて計測し、各臓器のグラム当りのカウント数を求め、各臓器比を両者について検討した。

〔結果〕¹³¹I-Adsterol および¹³¹I-19-iodocholesterol の両者共に副腎の集積を認めた。両者間に著明な差を認めなかった。

臓器分布による検討では、副腎および甲状腺に両者共に高い集積が認められたが、両者間に差は認めなかった。